

海第十三号の作品について

海のホームページには、「ニュース」等のコラムを設け、海の作品に対していただいた批評や感想等の内容の要旨を掲載し、同人個々の参考になるようにしています。第十三号（通巻第八十号）の作品に対しお寄せいただいた感想等の一部（抄）を、左記に掲載させていただきます。御意見等をいただいた各位（お名前は略）に、心から感謝申し上げます。

◇詩の部

菅原由理作品について

「失意ほか」

- ・短い行の中に、深い思いが込められている。鋭敏な感覚がよい。
- ・ものの見方、感じ方が自然体でよい。

松本西夏作品について

「見えないもの」ほか

- ・抑制の効いた詩語と行間。清冽な詩精を感じた。

◇詩と画の部

島井まみ作品について

「話っ花（四）」
・詩と画が軽妙に重なり、情感を醸し出している。

◇翻訳の部

牧草 泉作品について

「街の女マギー」

- ・興味深く読んだ。次回が楽しみである。

◇評論の部

原千里作品について

「廣瀬淡窓とその世界 『学制ノ議』をめぐって」

- ・明治の学制に関わった淡窓の周辺を紹介する、貴重なものである。

◇掌編小説の部

有森信二作品について

「光の子」

- ・観念的である。鋭いが、深みに欠ける。

◇小説の部

高岡啓次郎作品について

「偏光玩具」

- ・人生を見詰める優しさと深さが、滲み出ている。作者の資質が見えてくる。
- ・文章にリアリティがあり、感情移入しやすい作品である。

有森信二作品について

「遅れて来た少年」
・波乱の高校生活が描かれ、時代を彷彿とさせる。

・主人公の強さとイメージに乖離がある。タイトルの工夫が必要である。

牧草 泉作品について

「K子と俺の関係」

・刑務所を出た男と、迎えてくれる女の関係をサラリと書いている。

赤木健介作品について

「いつの日か、流離いの」

・凄まじい話である。リアリズム小説として、迫力ある問題作である。

・作者の積極的な取り組みの姿勢がよい。独自の文学感を形成しており、評価したい。

◇海の全体について

・花書院の仕事がしっかりしており、冊子の印象がよい。

・書く意図が明確であり、よい作者の作品が、全体に影響を与えている。

・上質の誌をめざして、努力している。

（有森まとめ）